

エスペラントは心の国境を消すことばです

*Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo*

# Heroldo de HEL

N-ro 166

Julio 2016

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・ 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・ **Memoriga stampo de la 1-a Hokkajda Kongreso de Esperanto/第1回北海道エスペラント大会の記念スタンプ/HOŠIDA Acuŝi** P. 2
- ・ **Fru-somera kunloĝado 2016/2016年度初夏合宿報告** P. 4
- ・ **Raporto de mezgrada klaso/2016年度初夏合宿(中級)/HOŠIDA Acuŝi** P. 6
- ・ エルプラまつり2016 P. 7
- ・ 星田さんへの『人民の敵』のインタビュー記事について(4) P. 8
- ・ **Intervjuo de HEL-eksprezidanto HOŠIDA Acuŝi en la gazeto "Jinmin no teki"(4)/横山裕之**
- ・ **Danke ricevitaj (星田淳扱い読みたい方はご連絡ください)** P.15
- ・ **2016年度 第4回北海道エスペラント連盟委員会議事録** P.18
- ・ **[編集後記/Redaktanto parolas .....]** P.20

**Memoriga stampo de  
la 1-a Hokkajda Kongreso de Esperanto  
第1回北海道エスペラント大会の記念スタンプ**

**HOSIDA Acuŝi**

今年の北海道エスペラント大会は第 80 回を迎えます。第 1 回大会は 1932 年、84 年前のこと。当時の参加者から「記念スタンプがあった」と話は聞いていたが実物は見たことがなかった。filatelisto(切手趣味の人)がオークションで入手したもののコピーを頂いたので紹介します。第 1 回大会の参加者(当時苫小牧工業学校教諭)、S-ro 渡部隆志(わたなべたかし)が米国シアトル・エスペラント会の友人(Ges-roj Wayne Jackson)に出したはがきに やや不鮮明だが文字は読める記念スタンプが押してあります。ハガキ文は次の通り(はがきのコピーは次のページ)

Tomakomai kogio Gak?o(苫小牧工業学校か) La 14an de Sep.  
Karaj ges-roj, Tutkore mi vin dankas por via tre afabla letero,  
ricevita ĉi matene kune kun la poemaro de S-ro Adamo.

Estas tre ĝoje aŭdi, ke via sindonema movado kaj klopodo  
estas ĉiam pli vigle kreskanta ne nur en la nord-okcidenta  
parto, sed ankaŭ preskaŭ tuta Usono.

Vivu //(?) nia lingvo!

Koran saluton de via

T. Ŭatanabe

不鮮明な図柄は山の姿で下に Asibecu とあり、大会開催地  
山部村(現富良野市山部)の芦別岳を示している、とわかります。



Tromboni  
 1000 1/2  
 1000 1/2  
 1000 1/2

Tullone mi vin  
 lantid per via tre  
 spella letto, ricomita in matene  
 Ametun la Pomarola di roldan  
 Estas fupije mudi, ke mi dimunon  
 morda 1/2; l'opone colas dima pli  
 rple l'entanta ne nun con la mont  
 of videntu panti, sed andant p'entru  
 lita uona. Vire de na ligro!  
 Kernu delton de la f'netambe,



六かは便集

Gertruy  
 Wayne Jackson  
 Charles Exp. Societ  
 1618 1/2 Broadway  
 Seattle Wash. D.C.  
 U. S. A.

## Fru-somera kunloĝado 2016 2016年度初夏合宿報告

- 日時：6月18日（土）13:00～19日（日）12:30
- 会場：柴田内科循環器研修センター（札幌市西区西野1条7丁目）
- 参加者数：20名（HEL 会員15名、会員外5名）
- クラス別人数と指導者
  - ・入門（講師：阿部映子、横山裕之）→5人
  - ・会話（講師：川合由香）→4人
  - ・中級（講師：星田淳）→5人
  - ・子どもクラス：（後藤純子）→1人
- ゲームと歌

1日目：学習後、全員集合でゲーム（Paraj babiloj-リレー会話）を楽しんだ。これは、昔、KLEG の合宿等でよく流行った、向かい合わせになって会話し、合図があったら、一人ずらして相手を変えて行くゲーム。初心者からベテラン迄大いに盛り上がった。

2日目：解散の前に全員で東日本大震災の歌「花は咲く」のエスペラント版を星田さんの指導で合唱し、全員が一音ずつ、感想を出し合って締めくくった。

（感想）入門講座のチラシは、300枚用意して、かでの、エルプラ、地下歩行空間に置いてもらったが、殆ど効果はなかった。

・横山さんが職場の同僚に声かけをして下さって、ご夫婦で参加して下さい下さった方もあり、ありがたかった。

・今年は、会話クラスと子どもクラスを新設し、会話クラスは、会員の方のたつての希望で設け、川合さんに講師を引き受けて貰ったが、大好評だった。

・一方、子どもクラスは、山下さんのお孫さんで小5の佐々木香華さん。エスペラントの12支と副12支のカルタを自作して、カルタ取

りをしたり、カルタで“Kio estas tio?”と会話して遊んだ。来年からも、お孫さんや親戚のお子さん等どしどし参加させて欲しい。

・今年も、柴田さんのセンターを使わせてもらって、キャンプ用のテーブルを座敷に広げてもらったり、色々ご協力頂きありがたかった。

(後藤純子)

・エスペラントを聞いたり、話したりは、殆どできないので、非常に勉強になった。川合さんが、色々考えて来られて、写真の説明をエスペラントですとか、有名人のプロフィールを誦むのを聞いて、その人を当てるなど、大いに楽しみました。

(白濱晴久)

・18日の初夏合宿は、私にとって、何故かとても楽しい時間でした。感謝します。少し遅れて到着し、始め、私がとても流暢に話す人達のグループ、中級に組入れられていることを知って、どうしようと躊躇したのですが、何とか、リラックスして仲間に着いて行く事が出来て、本当に中級の実力がついたような勘違いをさせていただくことができました。

きっと、先ず、指導者の準備がよく整っていたからだと思います。ご苦労様でした。今回は2、3のゲームをしたのですが、参加者のテーマに関する意思統一がよくできていたので、話すにも聞くにも、その内容がお互いに相手によく通じた事、また、話す以前に自分の心の中で充分準備ができた事が、私にとって大きかったと思います。

思い残すのは、次の日が日曜日で、前日しか出席出来なかったのが残念でした。それにしても、この数年で、初級程度に過ぎない私をここ迄引き上げて下さった会の皆様心から感謝します。

(柳 幸三郎)

[参加者の集合写真は 17頁にあります]

Raporto de mezgrada klaso  
2016年度初夏合宿(中級)

HOSIDA Acuŝi

「中級」と名付けるからにはそれにふさわしく会話はエスペラントで、と毎年心がけているが、まだ達成されてはいない。

\* 「詩を読んで謎を解く」: 単語を説明する詩を読んで「何の説明か」をあてる。去年もやった。この原本は “222 simplaj versa ĵoj por komencantoj”。中国出身の Esperanto-akademiano, Laŭlum(LI Shijun:李士俊) の作。

\* 発音練習: Longa “l” と ronda “r” について

“l” と “r” は日本語では区別なくラ行音になってしまうから区別して発音する練習。“r” は舌先の振動を強調した巻き舌の(べらんめえ調)発音にすれば区別できる。

\* edzo の発音について: エスペラントではすべての文字を発音することになっているから e-d-zo の発音が誤りとは言えないが、この dz は c(ツ) の濁音と見なして edzo-エツォ、edzino-エツィーノ と発音していることが多い。

\* サハリンのエスペランチストからのメールを読み現地の状況を理解:  
連絡があるのは1名、男性。REU(Rusia Esperantista Unio) には所属せず。西海岸の Neveljsk で1990年ごろ生まれ育ったが2007年の地震で被災、ユジノサハリンスク近郊に移った。外国がロシアの領土に口を出すのは許せないが今のロシアの政治は悪い。独裁、ファシズムだ。(SESで読んでいる “Homoj de Putin” によると こんな意見は少数派らしいが)

## エルプラまつり2016

—9月10日（土）10：00～15：00—  
（HELの展示場所：札幌エルプラザ3階和室）

HELのキャッチフレーズ：

「世界の平和と平等を目指す言葉エスペラント」

エルプラまつりとは、札幌エルプラザの公共4施設を利用している市民活動団体、一般サークル団体が、日頃の活動内容を発表する年1回のイベントです。私達の活動を多くの市民にPRする絶好のチャンスです。

会員のみならず、是非お訪ね下さい！また、展示に適した資料をお持ちの方はお貸し下さい。

ご協力よろしく申し上げます。

（文責：後藤純子）

## 星田さんへの『人民の敵』のインタビュー記事について(4) Intervjuo de HEL-eksprezidanto HOSIDA Acuŝi en la gazeto "Jinmin no teki"(4)

横山裕之

Daŭrigo: 前号より続く

M 北海道エスペラント連盟とも協力関係は保ちながら、主要には左翼的な傾向を持った、それも若い人たちを中心にしたサークルのネットワークを北海道に作りたいとぼくは思っています。もちろんその過程で、自分は政治的な運動には関わりたくないというメンバーも出てくるだろうから、そういう人には北海道エスペラント連盟に行っていただく、と。ゴミ箱みたいな位置づけですけど(笑)。

星田 ん？

M だけどそれによって協力関係は成り立つでしょう(笑)。

星田 この人はずっと以前からそういう方向で考えていたはずだとは思いますが、連盟の委員として活動してもらった時期もかなり長いし、連盟の図書や資料の大部分がココに置かれていた時期もある。ところがやがて、そういう状態はもう続けられない、図書や資料も持ち出せという要求がこちらから来て、かつ自分も連盟から脱退すると云った。私はそれを止めたはずだ。無役の委員としてでもいいから連盟にとどまって活動を続けられないかと提案したが、それも拒否された。そういう経緯があって現在の状況があるわけだが、あの時の選択はあれで良かったと今でも思う？

M むしろ辞めるのが遅かったと思っています。連盟の役員をやったのは……ぼくらが連盟の運営についてあれこれ云っていたら、「そんなことを云うなら自分がやってみる」と前事務局長に云われて、引き受けるかどうか議論をしたんです。意見は真二つに割れて、ぼくは中間派だったんだけど、やってもいいんじゃないかという人もいるんなら、やってもいいかなと思って引き受けた。当時のぼくが抱いていたイメージは、何らかインパクトを与えて、つまり「楽しい学習会」、「楽しい行事」、「楽しい大会」、なんかを一通りやってみせて、こういうふうにだってやれるんだと分かってもらった上で撤退するというものだったんですよ。しかし撤退のチャンスを逃してズルズルと続けてしまった。そのうちぼくらのメンバーの中から、ぼくに云わせれば「裏切り」があって、その人が新しい事務局長になったわけだけど、その「裏切り」を奇貨として、ぼくは本来やりたかった活動、例えば若い諸君といろいろやるとかって方向に復帰する。政治的な偏向に注意しながら慎重に発言しなきゃいけないような立場から離れて、云いたいことははっきり云う、革命がやりたいんなら「革命がやりたい」とはっきり云うってことですね。

星田 そういうことであれば、双方ともが相手の意図や考えの分からないままに、それぞれ独自の行動をとったというふうに見える。過去のことについて、あれがダメだった、これがダメだったと云っても仕方ないが……。

外山 日本のエスペラント運動全体の中で、SAT ほどの程度の存在感を持ってるんですか？

M 一大派閥。日本のエスペラント人口が1万人だとすれば……実際にはぼくは3千人だと見てるけど、そのうち百人がSAT。

外山 1万人だとしても1%、実際にはおそらく3千人で、数%を占めてる、と。

M だから決して少ないわけではないんだけど、現実には何ら行動綱領を持っていないし、SAT メンバーであることが自分の「良心の証」であるという程度のことだったり、せいぜい SAT からの通信を読んでいたりするだけで、活動としては極めて低い水準にとどまっていると云っていいと思う。ただ日本のエスペラントのいわゆる中立運動の地方組織なり全国組織なりの幹部に、SAT メンバーが何人か



含まれていたりするのも普通だったりする。

星田 北海道のSATとしては、現時点でどういう目標なり行動方針を持ってやっていくつもりなのか。連盟そのものは、一般的なエスペラント運動というか、それを「中立、運動と呼ぼうと呼ぶまいとどっちでもいいんだが、エスペラントでこんなことができるというのを一般の人に知ってもらって、とにかく広めようということなので、SATとしても、エスペランチストを増やして仲間になろうということなんだから、とくに齟齬が生じるわけでもないだろう。目標なんかに色合いの違いが多少あることは分かるけれどもね。

M 要はやりたいことをやるかどうかなんです。とくに若い諸君を抱えてると、「ここは将来のことを考えて、ひとつ『付き合い』だと思って……」なんて云い草は通用しないから(笑)。若い奴はその場その場が面白くなければすぐに辞めていっちゃう。現実問題としては、まあ「3回に1回は面白い、ぐらいの頻度で面白くなきゃダメなんですよ。

」星田 昨年のザメンホフ祭については、計画・運営とも事実上すべて彼(M)に任されておったはずだが、そこで「面白いこと」はできたと考えているのかどうかについては？

M あの時「面白いこと」というより、上映会を盛大にやりたいということで、それを実現することが獲得目標だった。

星田 ではそれは実現できたわけですね。

M そうです。

星田 今年やるとすればどういうことを考える？

M 今年もザメンホフ祭に関しては何も計画はありません。

星田 それは、やる気はないということ？

M 今のところは、もちろん横山さんあたりから、「こんなことをやりたいんだけど」と何かヒソヒソ話があって、面白そうだと思えばやるかもしれません(笑)。

外山 昨年は何を上映したんですか？

M SAT制作の『エスペラント』というドキュメンタリー。これはぼくらが見てもそれなりに質の高い映像作品だということもあったけど、観た人がそれを利用してさらに仲間を広げていくこともできるんじゃないかとも思ったんだ。ただ宣伝の仕方を間違えて、もうちょっと早い時期から大々的に、例えばぼくの昔からの友人でエスペラントにも興味は持ってるような、中核派のシンパの人とかいろいろいるから、そういう人たちを全部大動員すればもっと面白くなっただろうとは思う。エスペランチストの参加者が10人いたとしたら、エスペラントに興味はあるが実際にやってるわけではない人が40人とかって感じの上映会にしようと思えばできたはずなんだ。

外山 実際にそうやって広げるしかないですよ。イベントの内容がSAT寄りのものであろうとなかろうと、エスペラントをすでにやってる人たちよりそうでない人たちの方が多いぐらいにすることを考えないと、広げていくにもそのきっかけさえできないでしょう。

星田 今年のザメンホフ祭をどうするかはひとまず措いて、いずれにせよ今後そういう方向でやっていくことが可能であれば、それはなかなか結構なことだと思うが……。

M 札幌の中立系エスペランチストたちの大きな弱点だとぼくが思うのは……いや、札幌だけでなくこれは全国共通だと思うんですが、ロコミで広げようとしにくいことです。自分がエスペラントの集まりに足を運ぶというのも「枯れ木も山のにぎわい」ではあるけど、自分だけではなく周りの他の人を、あの人ならもしかしたら面白がってくれるかもしれないとか、あの方はピンと来ないかもしれないけど一応声だけでもかけてみようとか、そういう活動は中立系の人たちにはまったく期待できないんです。もし協同してやっていくとすれば、双方でロコミの重要性を確認した上でないと意味がない。

星田 なるべく話を広めていこうということは最近では連盟でも云われていて、そうでないと発展はありえないからね。

M もしもぼくが今、北海道エスペラント連盟の幹部だったら、1万円ぐらい謝礼を払ってユウジ君に講演をやってもらおう。

星田 具体的な話が出てきたな。

M 日系ブラジル人の青年に、サンパウロの生活と札幌の生活を比較して話してもらおうよね。それをエスペラントで話してもらうんだ。たぶんユウジ君は連盟の会員ではないはずなので、謝礼を払って、その代わり何日も準備して講演原稿を練ってもらって……ということをはくなら考えます。

星田 それはエスペラント運動の中での行事として？

M ユウジ君にはエスペラントで講演してもらおうとしても、日本語の通訳をつけたっていいんです。そしたら、ユウジ君の友人の学生はたくさんいるだろうし、ユウジ君が講演をする、通訳もつくからエスペラントが分からなくても大丈夫らしい、となれば彼らも聞きに来ると思うんです。そうなればぼくも周りの学生諸君を誘える。ユウジ君の話には興味はなくても(笑)、他にも学生がたくさん来るんなら行く気になるかもしれない。

星田 それが人を集めるのに有効であれば、そういう機会を設けてもいいように思う。

M 普通のエスペランチストの外国人に講演してもらおうのとユウジ君とで何が違うかという、彼は研修生として日本に来てるわけです。それは欧米人が旅行で来日しましたというのとはワケが違って、移民問題・民族問題を抱えながらの日本滞在なので、彼が置かれた状況について話を聞くのは、社会的な意味も大きいでしょう。

星田 趣旨は理解できるが、今のような云い方ではちょっとまだ堅すぎて、一般の人を誘うのには難しい気がするね。この場ではそれでいいが、もし実際にやるとなったら、一般向けにはどういふ云い方をする？

外山 とりあえず連盟の内部向けには興味は持ってもらいやすそうですけど……つまりエスペラントをやってるんだけど、北海道エスペラント連盟の会員ではない外国人が日本に住んでるということでしょうから、彼の話聞いてみませんか、と。

星田 現時点では客人のような存在だけど、連盟の行事にはよく来ていますよ。

外山 じゃああんまり新味はないか(笑)。

M ……SATというのは本来、単なる言語コミュニティではなく、機能的な集団であるはずなんです。

星田 まあ「運動体」だな。

M しかし日本ではSATも言語コミュニティのようなものになってしまっている。ぼくらはもっと機能的なものとしてSATなり、SAT的な集団を組織できればいいと思っているわけです。……昨日か一昨日、雑誌の中で出たんだっただ、エスペラント運動はどういう時に拡大するのかという話、あれを星田さんに再度話してほしいんですが。

星田 日本が世界に向けて何か開かれていくような予感のある時と云いますか、そういう感覚が社会に広く共有している時にエスペラント運動は伸びたんです。逆にそういう雰囲気閉ざされると萎んでいく。

M 大正時代に西洋文化がとくにインテリゲンチヤの中にどっと流入した時に、同時にエスペラント運動も入ってきて、必ずしも大衆的に拡大したわけではないだろうけど、少なくともインテリゲンチヤの間で爆発的に流行したわけですよ。

星田 インテリばかりではない時期もあるよ。札幌での講習会に2、3百人が集まったこともあると聞く。一次大戦後のことかな、すでに札幌でエスペラントをやった人たちも驚いたみたいだ。今の状況で、どうすればまたそのようなことを実現できるのか……。

M ぼくは無理に実現する必要もないと思うんです。細々とやるのはどうですか？(笑)

星田 現に細々とやっておるわけだ(笑)。

M ただ「細々」であってもそれが楽しければいいということなんですよ。楽しいというか、ワクワクできればいい。その「ワクワク」というのは、北海道で考えるなら1つには例えば、横山さんが

やっているように、アイヌ民族の文化や言語を使ったり広げたりとかってことでもいいし、実際に北海道エスペラント連盟は「アイナイ・ユカーロイ」（アイヌ神謡集のエスペラント訳）を刊行したりして蓄積もありますよね。あるいはロシアですよ。ロシアとの交流を系統的におこなうこと。これにはお金も時間もかかるだろうけど、メリットも大きいと思います。

星田 何かワクワクするものが必要だというのはまったく同感で、もはや伝説化してるような一次大戦後の札幌での講習会というのも、やはり当時の人々がエスペラントに対して、日本が世界に向けて開けてゆくようなワクワクする感覚と相通じるものを感じたからこそ、それだけの人数が集まったんだろう。アイヌ関係の話が出たけれども、今そういうことでワクワクしてくれる人がどれほどいるかということについては私は悲観的だな。ロシアについては、たしかに我々はこのところ、やるべきことを十分にやっていないんだ。現時点で連絡がついているのは、ウラジオストクのグループとハバロフスクの数名だね。ハバロフスクの方はもう1人だけになってしまってるが、連盟の機関誌にもよく書いてくれて、向こうの詩人の紹介などをしてきているのは、まあいいことだとは思ふ。ただエスペラントの中であれ外であれ、あまり反応が見えないのが残念ではあるね。いずれにせよ、すぐ隣りにあるロシアとの関係が、ちょっとしか築けていないというのはエスペラント運動として異常というか、やるべきことをやれていないということでしょう。とくにサハリンのグループと連絡がついていないという現状は何とかなければならぬ。

外山 サハリンにも「おそらく」いるということですか？

M 少なくとも個人的にやっている人はまず間違いなくいる。ウラジオストクのグループが何度も連絡をつけることを試みたんだけど、ついに返信がなかったということを経年ぐらい前に聞いてるんだ。

星田 ウラジオストクからサハリンの方へ渡ったワレリーという人がいるよね。

M 彼はカムチャツカじゃなかったかな。

星田 カムチャツカやサハリンを行ったり来たりという仕事をしているはずで、時々ひよいと私のところにメールが来ることがある。

M ワレリーは優秀なエスペランチストですよ。

星田 たしかにそうだ。

M 小林多喜二の小説で「俱知安行」だったか、題名は正確に覚えてないんだけど、短編小説があって、労農党の選挙運動で、真冬に馬ゾリで俱知安あたりの村々を回る話なんです。

星田 「東俱知安行」（28年執筆・30年発表）じゃないか？

M そうだったかも。とにかくあのイメージで、サハリンへ行こう（笑）。もしここ2、3年のうちに具体化できるなら、北大生数名を連れて、あと現地に北大に留学してたロシア人がいるんで、そいつを低賃金で通訳に雇ってさ（笑）。で、まず先遣隊が行って、新聞社なんかと接触する。新聞社は絶対に飛びつくよ。北海道というすぐ隣の島から日本人の青年たちがやって来て、エスペラントという……。

外山 謎の言語を話す青年たちが（笑）。

M いっそ新聞広告を打ってもいいし、公民館みたいところにエスペラントに興味を持ったロシア人たちに集まってもらって……。

外山 サハリン各地を馬ゾリで回る（笑）。

M 街を3つ4つぐらい回って、帰ってほしい。もちろんこれにはすごい予算がかかる。まず宿泊費がバカにならないだろうしね。だけどやるなら今のうちだと思ふよ。

星田 今？（笑）

M 準備は今からでもやっとなないと、さあ準備ができましたという段になって北大生が界限に1人もいません、ってことにもなりかねない。……年に1回とか2年に1回とか、サハリンで合宿をやるぞ、ということになれば小川君もエスペラント研究会に参加するだろ？（笑）あんまり政治的なことは抜きにして、とにかくロシア人と仲良くしてくれればいいんだよと云ったら、行きたくならない？小川 それはたしかに行ってみたいかもしれませんね。エスペラントの勉強をちょっと我慢すればいいんでしょう？（笑）

M ぼくらは以前から「北海道宣伝隊」というのは考えてたんだけど、それじゃあまりワクワクし

ないんです。それでも試しに日帰りでも行ける近場の石狩、江別あたりでまずやってみてもいいんだけどさ。

外山 それこそ「劇団どくんど」が北海道は6、7ヶ所開拓していて、北海道じゅうのヘンテコな人たちのネットワークはすでにできてるはずですよ。

M それなら付いて回ったっていいね。

外山 今年は休業してるけど、来年はまたツアーをやりませう。

M 「どくんど」に付いて回って、打ち上げでビラをまいて……。

星田 ストラングーロ・グループ（変人の集団）？

M 劇団なんです。テント劇団。……とにかくこんなふうに話してればアイデアはどんどん出てくるんですって。

星田 いくら出てきても泡と消えるようなものばかりではダメだよ（笑）。

M それでも出てくると出てこないのでは雲泥の差なんです（笑）。

星田 それはたしかにそうだ。まあ、やれそうなものはさらに調べて検討しなければならん。

M ぼくが分からないのは、札幌エスペラント会なんかをコツコツやってる人たちが、どういうことにワクワクするのかってことです。見当がつかない。

星田 なるほど。

M この人たちは何が楽しくて生きてるんだろうかと（笑）。

星田 そりゃあ続けている以上は何かあるんでしょうけどね。私も札幌エスペラント会の集まりには何年も出てないし、ザメンホフ祭やなんかの時に顔を見るだけという人が多い。

M お年寄りが多いし、そんなに無理もできないというのは分かるんだけど……。『サハリン・オルグ団』の後は、今度は『北方領土・ビザあり交流団』の遠大な計画へとつながっていくんです。クソ外務省に徹底的に嫌がらせをする。

外山 なるほど。ビザがあれば北方領土には渡れるんですね。だけど北方領土は『外国』ではないという立場を守らなければならない外務省としては、そういうことはやってほしくないってことか（日本政府は89年に国民に対して『自衛』を求めており、『ビザあり渡航』は行政指導の対象とはなるが、とくに罰則等はないようだ）。

M エスペラント大会とか、何か催しをやる時に外務省の後援をもらいに行くんですよ。断られたら、「ふーん、また『ビザあり交流』に行っちゃおっかなー」って聞こえるように云う（笑）。「評判良かったしなー」とかって。……星田さんの今の1番の関心事は何ですか？

星田 エスペラントに関して言えば、ずっと云っているように、どうすればもっと広められるかということだよ。すぐに答えの出るものではないし、私だけが頭を悩ませてることでもないと思うが。

M 人を集めるというのは、武装蜂起でも何でも同じで、あらかじめ予測のつかないことが多いんです。

外山 北大のエスペラント研究会は今、何人ぐらいなんですか？

M 4、5人いる。

外山 熊本大学の準君は、昨年だったか、初めて会った時点では1人で「熊大アナキズム研究会」を名乗っていたんですよ。しばらくして、「『アナキズム研究会』ではどうも人が集まらないので、『エスペラント研究会』にします」って言い出して、それはもっと集まらないだろうと思ったんだけど（笑）、それから2、3ヶ月で「12人になりました」とか云ってて……。毎週集まって、意外と地道に勉強をしているみたいです。

星田 近く東京に行くから、東京にいる熊大エスペラント研究会のかつてのメンバーにも会ってみたいと云ってた。彼はいろいろ動いてるね。

M 星田さんが一番最近、エスペラントに誘って定着した人ってどういう人になりますか？

星田 先日消えてしまったけど、結婚したら続けられなくなると思いますと云ってて、実際そのとおりになった女性が一番最近ってことになるか。

外山 何歳ぐらいの人ですか？

星田 30ぐらいだと思う。

外山 誘ったのはいつ頃ですか？

星田 2年ぐらい前かな。

M これまで誘った人を全部合わせると百人とかにはなるでしょう？

星田 講習会に参加してエスペラントに少しでも触れたという人まで合わせたら、何百人という単位になるでしょうね。長く続いた人はやっぱり少ない。それでも「おや？」と思うことも時々あって、例えば五高時代か九大時代かに、たしかに私の講習会に来ておった名前が、長崎のエスペラント会の名簿にあるのを見つけたりする。連絡はないからもう消えたかと思っていたが、どこかで続けてくれていたとすれば大いに結構なことだ。

M 昨日、今日と星田さんのお話を伺ってきましたが、星田さんの講習を受けるよりずっと面白かったんじゃないかと思えます(笑)。おそらく飲み会がほとんどなくなって、雑談でその人の持っている歴史だとか、ものの考え方について聞く機会がなくなってしまったというのが、ここ何年間かの過程だという気がするんですよ。

星田 苫小牧では、年に1度のザメンホフ祭の時に、もちろんザメンホフ祭そのものは公共施設を借りて儀式的にやるけど、報告とか今後の方針とか、そんなものは1時間もかからずに終わってしまうから、その後は場所を変えて飲み会になる。まあそれは忘年会を兼ねてるね。新年会も私の家で何度かやってる。それは面白い時もあるにはあるが、たしかに昔に比べたらそうでもなくなってるような気もするなあ。かつてはなぜ面白かったのか、考えてみる必要はありそうだな。まあ皆さん、年をとるとだんだん面白くなくなってくるというか(笑)、活気がなくなってるということはある。

M やっぱりいろんな「ウラ話」を聞いたり、歴史的な経緯を聞いたりするのが楽しいし、あるいはこんなことを考えてる人だったのかとか、こういう仕事をしてるとは知らなかったとかって驚くのも面白い。ぼくは連盟の事務局にいた時に、「積極的中立主義」を掲げていて、それは何かと云うと、「エスペラントに関係のない話でも、エスペランティストがやっていることは全部もう連盟の機関誌なんか載せていい」ってことなんです(笑)。それが右であれ左であれ、議論の対象にしてもいいって方針だったんだけど、それを具体化するにあたって段取りをうまくやらなかったもんだから、多くの反発を食らってしまったという反省はあるんですけど、基本方針としては間違っただけでなかったと今でも思っていて、「人間ナントカさん」がエスペラントをやってるんだってことを前面に打ち出していけば、絶対に面白くなったはずなんです。

星田 それは例えばこういうものが面白いという具体例はあるの？

M いや、具体例も何も、例えば中立系であるはずの北海道エスペラント連盟の機関誌なのに、「先日「反安保法制のデモ」に参加したんですが、若い人をチャホヤする傾向にはちょっとムツときました」とか(笑)、そういう本音の文章が載っていると面白いじゃないですか。

外山 「安保法制賛成」の人の意見も載ってたりしてね。

M もちろんそういうのも出てきたら載せる。互いを誹謗中傷さえしなければ何でも載せるっていう。

外山 「エスペラントをやってる」もしくは「エスペラントに興味がある」ということだけが共通点。

M そうそう。ぼくはそういうことをやりたかったんだけど、失敗したんです。

星田 失敗とは？

M MA君の文章を載せて失敗したんです。

星田 ああ、あれか。

M 編集方針についてコンセンサスがまだできてない状況で、いきなりボンと載せちゃったもんだから、「これは右翼の案内じゃないか」って反発された。

星田 たしかにそういう異議を出す人もいたな。

M それはぼくの段取りが悪かったんです。ただ中身に関しては今でも、例えば北大エス研なんかを中心とした、ぼくら SAT 系のグループでは、そいつが左翼でなくても、集まりに顔を出して面白いことを云うんだったら、もちろんエスペラントもやってる奴だったら、誰でもいいと思ってる。そいつが左翼系のグループのメンバーになるのがどうしてもイヤだと云うなら、別のグループを作ってくれてもいいし……。あの時はそういう面白い方向に舵を切れるチャンスではあったんだ。せつかく右翼のエスペランティストが登場して、そういう人はやっぱり珍しいんだよ。

外山 あ、そういう人が最近いるって当時聞いたような気がする。

M だけど最初のところで失敗しちゃった。

星田 そういう経緯は私も了解してるけど、仮にそんなふういろんなものが載るようになれば面白くなるのかと云えば、そこらへんは私には疑問もあるが……。

M 歴史的経緯を見ると、みんながそんなふうそれぞれの関心に基づいて喋り出すと、軋轢を生んだりケンカになったりすることの方が多かったんじゃないですか？

星田 そのへんはよく知らない。たしかにさっきから話してるケースでは軋轢が生まれて、こんなところにはもういたくないという人たちが出て行くという結果になったけど……。

M 各自がやってることや思ってることを、それらがとくにエスペラントと直接関係あろうがなかろうが、それぞれのキャパシティで共有していくという方向が面白いとぼくは考えてるんだけど、それは理想論でもあって、それをやっちゃうと対立や軋轢が生まれるから回避してるという、「集団の知恵、みたいなものが働いた結果として今こうなってるという気もするんです。

星田 それはある程度はあるでしょうね。

M だけどそういう「知恵」は、いろいろ出し合った上で紛争を回避するという方向で活かしてほしい。

星田 あまり控え目にせず、もう少し正直に本音を出してみてもどうか、ということだね。

M そうすれば多少なりともワクワクしたり面白かったりする場面も増えるんじゃないかと。

星田 ワクワクすることも増えるだろうが、「この野郎！」と思う場面も増えそうだな（笑）。

M それが人生じゃないですか（笑）。人が増えるということを一種の「財」と考えて、喜べるかどうかですよ。単なる頭数として見るのではなく、その人が持っているさまざまな可能性まで含めて全部こっちに来たんだと考えることができれば、人を誘うことがもっと面白くなってくるでしょう。「この人はエスペラントを勉強している学生だからちよつと大切にしよう」というのではなくて、「この人は何かへんな学生だからエスペラントを通じて仲良くなりながらいろいろ引き出してやろう」というようなね（笑）。そっちの方が楽しいじゃないですか。

星田 ……最近、札幌のエスペラント会に2人、新しく入ってきた人がいて、2人ともなかなか立派なエスペラントの文章を書けるんだ。そんな人がこっちが知らないところにまだ隠れておったことにビックリした。忙しい人も多いし、エスペラントに興味があつて、場合によっては独学である程度までやってるという人も、この調子なら他にもまだいるんじゃないかという気もしてくる。

M まともに宣伝すれば人口の1%とか0・5%とかは興味を持ってくれるかもしれませんね。

星田 1%にでもなれば大したもんだ。

外山 札幌都市圏だと1万人、2万になるのかな？

星田 数万の単位になるね。

M じゃあ、星田さんの目の黒いうちに……。

外山 「札幌1万人のエスペランチスト」を（笑）。

M それで緑星旗（エスペラントのシンボル）を掲げてデモ行進するんだ（笑）。それで星田さんの家の前まで行って「ハイル・ヒトラー！」みたいにやる（笑）。

星田 緑星旗を掲げたデモ行進は、こないだの夏の世界大会でやってたよ。第1回の世界大会をやつてザメンホフが演説した街。ブローニュ＝シュル＝メール（フランス北部）だ。何百人来てたかな。ザメンホフ像のある駅前から、市役所まで歩いたんだっか……出発地は第1回大会をやつた例の劇場だったな。その同じ劇場で、第1回大会から百十周年の記念式典をやつた。

外山 その「ゆかりの地」ではやっぱりエスペラントは盛んなんですか？

星田 いることはいる。市役所の屋上にも、その日は緑星旗が掲げられておつた。

Daürigota: 次号へ続く

# Danke ricevitaj (星田淳扱い、読みたい方はご連絡ください)

\* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 315/ aprilo 2016, Internacia Gazeto de Esperanto jokohama(Hama-Rondo)A4X4 頁、E(エスペラント)文。巻頭記事 Ricevotaj lernolibroj! は来年予定の 世界の教科書展への協力の返事、今 11 件。Beletro 欄の "Triangulo kaj kvarangulo(三角と四角)" は Iŭaja Sazanami(巖谷小波)の作品の紹介。

\* NOVA VOJO :N-ro 528 majo 2016, EPA(エスペラント普及会)、A5 X32 頁のうち E 文 11 頁。対訳で連載中の「大本物語」(原文ローマン・ドブジンスキー、和訳 矢野裕巳)は第 16 章 一神即多神即汎神に入る。

\* La Tamtamo; 第 487 号、2016 年 5 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X8 頁、日本文。4 月のハマロンダ・ベスペーロは「エスペラントの紹介—私の工夫」。講習会 Esenco クラス:ザメンホフの Esenco kaj Estonteco de la ideo de Lingvo Internacia について「E.について質問されること、ザメンホフの時代とあまり変わらなかったり・・・」との感想。

\* La Vulkano:N-ro 177, Majo 2016, LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO:,B5X 8 頁のうち E 文 1 頁は "Pri la unu-taga kurso por komencantoj ĉiunmonata en la urbo Hukuoka/MUTO Tacuko". 日本語記事も「中国・四国大会の印象あれこれ/秋吉任子」、「第 16 回中国・四国エスペラント大会報告/堀ノ江善仁」、「仙台日本大会へ参加した(2)/深見寿賀子」と、行事参加記事が多い。

\* La Movado:関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro784,junio 2016

2016 B5x16 頁のうち E 文 5 頁半。  
"La unua hajko en Esperanto/ HIROTAKA Masaaki" は最初に E. で原作俳句を作ったのは誰か、の調査。「ジャンボリーを機に思うこと/堀田裕彦」は連載 5 回で終わり。Esperantujo に対する問題指摘も多かった。「関連詞の末尾の "-o,-a" は語尾か、語根の一部か?/田熊健二」が連載開始。「<有料広告> サハリンと北海道をエスペラントで兄弟の関係に/北海道エスペランチスト合同サハリン交流宣伝旅団」が掲載されている。「Katastrofo! Ter-tremego!/HARADA Tsukuru」は 4 月 14 日からの熊本の地震の体験記。

\* Mejstono 2016 majo, n-ro 255, 仙台エスペラント会、B5X12 頁のうち E 文 3 頁強。第 36 回仙台緑の合宿(6 月 25 日)の案内、第 57 回東北エスペラント大会(10 月 29~30 日)の素案。Fikciaĵo として Memor-tago de Siriuso la Granda(Pere Prezentas OOKOŜI Keiji)。前号に続いて「第 102 回日本 E.大会(仙台)の参加報告」。受領機関誌紹介では Heroldo de HEL No.164 の第 97 回北海道 E.大会の会計報告について「会計報告収入 10,000 円、支出 91,868 円[なんだこれは]」とある。

\* 受講生通信; 第 166 号、2016-6-01,沼津エスペラント会、B5X14 頁のうちエスペラント文 2 頁。催し物欄に 6 月の「北海道初夏合宿」の案内。中級受講者の頁に初夏合宿場の家主さんからのたより。久しぶりに北海道からの便りでした!

\* Ponteto(Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo) Majo 2016, n-ro 276: B5x16 頁のうち E.

文 7 ページは "Tri jaroj pasis, kaj la Movado de geknaboj restas tia! / Albert Stalin", "AMO AL ESPERANTO-VORTAROJ (エスペラント辞書への愛) / SASAKI Teruhi-Ko", "ĈU LA SUPERREGO DE LA ANGLA LINGVO KAŬZOS (JAM KAŬZAS?) EKSTREMAN REAGON? / Glaŭco Pompilio" の 3 編。巻頭記事は「第 65 回関東 E 大会」(6 月、東京)。「酔いどれ文法再確認 / 仁木茂」は今号(6 回目)で終わる。

\* Junia SFERILO: SFERO (San Francisco Esperanto Regional Organization) の機関誌(電子受信) 2016 年 06 月号。米国大統領選挙に関連して次の文: "En la mondo de Donald Trump, Li akiras la sian kaj vi akiras doloron". これは Hillary Rodham Clinton のことばらしい。

\* Sferilo: (電子受信) 6 月例会予告と 5 月例会の報告はエスペラント文、各地の活動報告、行事予定は英語、エスペラント混在。

\* NOVA VOJO : N-ro 529 junio 2016, EPA (エスペラント普及会)、A5 X34 頁のうち E 文 12 頁弱。「巻頭言: エスペラントを通して価値ある体験を / TANAKA Masami ōji」は大本北海本苑在任中は時々札幌にも見えていた田中雅道氏の定年退職あいさつ。"SALUTOJ por la 26-a Internacia Kurskunveno de Esperanto" 以降は 4 月大本筑紫本苑で開かれた国際合宿の報告と写真。連載中の "Kurso por EPA kvara-grado / EPA 4 級講座" は EPA4 級試験相応の講座だが preni, meti のよ

うな基礎的な動詞の使い方を旧約聖書などから多くの例文を示して説明している。

\* Eskalo: 川崎エスペラント会機関誌 2016 年 6 月 8 日発行、第 161 号 (2016 年第 2 号): B5X8 頁のうち E 文 2 頁弱。今年の世界大会 (Nitra / Slovakio) 案内 / 編集部、「箱根で E 漫け合宿」は 5 月、アレクサンドラ綿貫さんを講師として参加者 8 名。「ザメンホフの "人類という夢" / 北川久」が連載開始。

\* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 316 / junio 2016, Internacia Gazeto de Esperanto jokohama (Hama-Rondo) A4X4 頁、E 文。内容は La Tamtamo と共通のものも多い。Eseo 欄の "Cent jaroj da idiot-Aĵoj / DOI Ĉieko" は「人間百年間の愚行」ということか。

\* La Tamtamo; 第 488 号、2016 年 6 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X8 頁、日本文。[5 月のハマロンダベスペーロ — 人工言語の諸相 —] がトップ記事。「講習会だより」欄を見ると 入門講習会、Hana ko クラス不定期、Hanako クラス継続講習会、など 11 クラスが進行中。連載 3 回目の「E の大先輩 / 牧野三男」は盲人の音楽家、日本大会でオルガンを演奏してくれた(故)田中禎一さんについて。

\* La Movado: 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro 785, julio 2016 B5x16 頁のうち E 文 3 頁半。巻頭記事 (E 文) は 103 回日本 E 大会 (近江八幡、10 月) 記念冊子による琵琶湖の説明。Kajero Libervola: "Rilato inter trunkkuko kaj atom-bombita kupoldomo / KOSAKA



Kiyoyuki”は1次大戦のときのドイツ人捕虜ユーハイムが広島県物産陳列館(現原爆ドーム)でバウムクーヘンを製造販売したことなど。対訳で連載中の「La Colulo/一寸法師/御伽草子集より」はこの号(4回目)で終わり。Salono欄の「Kio estas “lampiro”?/AIKAWA Setuko」: “lampiro”は「ツチポタル」で飛べない、羽があって飛ぶ日本のホテルは lucioloだ、という説明。一部の辞書で表現があいまいだったので時々誤りが見られる。

\*NOVA VOJO :N-ro 530 julio 2016, EPA(エスペラント普及会)、A5X34頁のうちE.文7頁。巻頭言「UK1」のころ、UKA100に、ドーバー海峡を通過したのは!!/碓大福」はここ110余年の世界の歴史を振り返っている。対訳で連載中の“RAKONTUJ EL OOMOTO/大本物語」第18章は三好鋭郎氏(EPA理事)の活動

について。第8回EPA関東E合宿(6月17~19日、八が岳E館)の参加記、記事、写真が4頁。

\*Novaĵoj Tamtamas; n-ro 317/ julio 2016, Internacia Gazeto de Esperanto jokohama(Hama-Rondo)A4X4頁、E(エスペラント)文。103回読書会は“TAMEN ĜI MOVI-ĜAS”について。

\*La Tamtamo; 第489号、2016年7月号、NPO法人エスペラントよこはま会報、A4X10頁、日本文。第103回読書会報告は“Tamen ĝi movi-ĝas!”について相田弥生と柴山純一の所感と解説。E運動の在り方についての様々な意見が紹介されている。人工言語ロジパンの紹介(南波文晴)は「言語」の在り方を考えさせる。連載中の「エスペラントの大先輩/牧野三男」は鶴野大良さん(故人、熊本)。



2016/08/18

Partoprenantoj de la Fru-somera kunlogado 2016  
2016年度初夏会宿の参加者

## 2016年度 第4回北海道エスぺラント連盟委員会 議事録

日時：2016年5月15日（日） 13:00～15:00

場所：札幌エルプラザ2階 消費者サロン2

出席者：横山（司会）、後藤（義）、後藤（純）、阿部、山下、星田、川合（記録）

（オブザーバー参加：宮沢直人、加藤智彦、水上さえ）

### 【組織】

- ・新規加入者：なし。
- ・退会者：3名（チャールズ・ミュラー氏、マヤ・ミュラー氏、須藤昭三氏）。
- ※現在会員数：42名

### 【財政】

- ・会費収入は順調（阿部）。
- ・残高は100万円を切っているが、活動に役立っているので、可（阿部）。
- ・予算は計画通りに執行されている（阿部）。

### 【広報】

- ・HP：アクセス数74,078件（2ヶ月前より+224）になった（横山）。
- ・メールマガジン：発行できていない。初夏合宿に合わせて発行したい（横山）。

### 【情報・宣伝】

- ・初夏合宿の案内の掲載を4月中に「北海道新聞」「朝日新聞」に依頼したが、先方からの連絡はまだない（川合）。
- ・札幌市西区を対象とするミニコミ紙「ウォーク」にも初夏合宿の案内掲載を頼んだが、載るかどうかはまだ不明（山下）。
- ・初夏合宿の宣伝を、北大E研究会が北大祭でする、と聞いている（横山）。⇒※別項参照

### 【教育・研究】

- ・SES：土曜例会では『Homoj de Putin』を間もなく読了。6月より平井征夫著『Hispana, Kataluna, Mangada…』に入る（後藤（純））。月曜例会では『日本文化を理解する77の鍵』を1回4頁ずつのペースで読んでいる（山下）。
- ・TES：『Kredu min, sinjorino!』を引き続き読んでいる。また、入門講習の案内の

掲載を新聞社に頼んだが、紙面に出たか否か不明(星田)。

### 【機関誌】

- ・5月15日、「Heroldo de HEL」第165号(20頁)、90部印刷・発行(星田)。
- ・次号は次回委員会時発行。

### 【年間計画】

【初夏合宿】6月18日(土)～19日(日)、柴田内科循環器科研修センター(札幌市西区)にて。⇒詳細は別項参照

【北海道大会】10月22日(土)～23日(日)、かでの2.7(札幌市中央区)にて。講演講師を依頼してあった堀泰雄氏(群馬県)より了承を得た(横山)。

### 【社会活動】

- ・サハリン旅団の詳細決まる。本誌(「Heroldo de HEL」第165号)3～4頁参照。
- ・さっぽろ自由学校「遊」でのE講座の構想について、今回委員会内で水上さえ氏より説明。⇒詳細は別項参照

### 【次回委員会】

2016年7月17日(日)13時より。場所はエルプラザ2階市民活動サポートセンター会議コーナー(12人用)。同日10時より機関誌の印刷を行う。

### 【初夏合宿詳細】(後藤(純))

- ・チラシはかでの2.7(40部)、札幌エルプラザ(30部)、地下歩行空間(30部)を配架した。現在までに問い合わせはない。残り100部は北大E研によって北大祭で配布してもらう。

- ・クラス担当は、

入門：阿部

会話：川合

初級：横山(+北大E研?)

中級：星田

- ・入門クラスで使用する『Eへの招待』(JEI発行の冊子)を100部、JEIへ注文する。

【後日、JEIに在庫が7部しかないと判明、7部購入することにした】

- ・ゲームの案：会話実践ゲーム「Paraj Babiloj」(リレー会話)

### 【北大E研、北大祭に出店】(加藤)

- ・北大祭(6月3日～5日)で雑貨・古本等の店を出す。そこで北大E研の

宣伝ビラ、JEIの三つ折りパンフ、HELの三つ折りパンフ、初夏合宿のチラシを配布する。

※いずれか1日、HELより川合が参加する。

**[サハリン旅団の宣伝について] (宮沢)**

・ビラ「サハリンと北海道をEで兄弟の関係に」が100枚ほどある。周りで撒いてほしい。藤巻謙一氏(静岡県)の通信講座でも封入をお願いした。

←SESで配ろう(後藤(純))。

・サハリン旅団のキャッチコピーは「Frata Paro」としたい。

**[さっぽろ自由学校「遊」でのE講座] (水上)**

・講座の開講は10月以降。

・Eの歴史や理念を強調し、知ってもらえる講座にしたい。現代日本社会の中でEの思想を読み返し、再評価するものにしたい。

**[雑件]**

・かでの2.7の部屋の使用は、これまで「参加者の過半数が65歳以上なら、無料」だったが、来年からは有料となる(後藤(純))。

・「クロネコメール便」の廃止(3月31日)に伴い、現在、機関誌を郵便で送っているが、「クロネコDM便」(後継サービス)がより安価ならば、そちらを利用したい(川合)。

←クロネコ側に問い合わせる(後藤(義))。

**[編集後記/Redaktanto parolas .....]**

\*今年は第80回北海道エスペラント大会。特に記念行事も予定がないので第1回大会記念スタンプを出しました。

\*初夏合宿参加者20名、クチコミで集まったか。新聞に予告が出たらもっと集まったはず?! 努力しましょう。

\*\*\*\*\*

北海道エスペラント連盟 会費/年  
正会員 3000円、青年会員(26歳未満) 1500円、  
購読会員 2000円、家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

\*Redaktas la Organo Fako de HEL

e e HOSIDA Acusi

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOWAI

053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS: 0144-74-2539

Retadreso: hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

\*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 100, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

Kita-ku, Sapporo. 060-0808 Japanio

TEL-FAKS: 0126-35-7153

Retadreo: kunespere@olive.plala.or.jp

\*TTT-ejo: <http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm>

\*Postgirkonto (郵便振替): 02700-6-17075

北海道エスペラント連盟

\*編集: 連盟機関誌部

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

\*事務局: 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動センター1階No.100